

第3回 H Y O G Oスポーツ新展開検討委員会 議事録

- 1 日時 令和6年3月7日
- 2 場所 県庁2号館5階庁議室及び会議室
- 3 議事録

【知事】

大変ご多忙の折、今日は兵庫県のH Y O G Oスポーツ新展開検討委員会にご出席いただき、ありがとうございます。

去年10月から始まったこの検討委員会だが、座長の長ヶ原委員をはじめ、皆様のご協力を得て、本日、取りまとめとなった。

この間、阪神タイガースが38年ぶりの日本一、本当におめでとうございます。そして、ヴィッセル神戸もJ1のリーグ初優勝、そしてスケートも坂本花織選手がグランプリファイナル初制覇した。I N A C神戸も優勝し、女子マラソンの前田選手が日本記録の更新など、兵庫出身そして兵庫ゆかりのスポーツチーム、そしてスポーツ選手が本当に躍動しというのが去年の1年間だった。

今年5月には世界パラ陸上が神戸で開催、これからスポーツ・ユニバーサルスポーツ含めて、色々な広がりこれから期待できるのが兵庫のスポーツシーンである。

大事なのは、このスポーツの盛り上がり、地域活性化、子どもたちのスポーツ環境に繋げる。大谷翔平選手のような未来を担うスポーツ選が兵庫を舞台に、世界で活躍できる選手を育てていくことが大事である。

何より県民の皆さんにとって身近にスポーツを、楽しみ、観たりできるような、そんな環境づくりをしていくことが地域の活性化にもなる。地域経済にとっても非常に大きなポテンシャルを持っているというのが、スポーツの力だと思う。

今日の議論を踏まえ、兵庫として戦略をしっかりとつくっていくことが大事だと思うので、本日もよろしくお願ひしたい。

【井ノ本県民生活部長】

本日は、これまでの検討委員会及び4つの分科会からいただいた意見を集約し、提案書に取りまとめでいただいた。

長ヶ原座長より、H Y O G Oスポーツ新展開への提案を、ご説明をさせていただく。その後、各委員からコメントをいただく。

【長ヶ原座長】

早速、資料に沿って説明する。

中身の前に、そこに至った経緯と振り返りの部分に触れていく。

今回の委員会の議論を始めた際の最初の方向性として、スポーツが持つ多面的な力を引き出す。そしてスポーツによって県民生活を豊かにする。スポーツによって兵庫経済を拡大するという3つの目的で、

それを実現していくための案を議論した。

その議論の場としては、委員会、4つの分科会、かなり重厚なメンバーの方々によって10月からスタートし、この3月にまとめた。短期間であったが、それぞれ濃厚な会議が濃密に開催された。

各委員会で非常に刺激的なご意見、情報が満載されており、これから紹介する提案書の各項目は、これらの具体的な内容を基に作成している。

各会議の主要なご意見を事務局のほうで時系列的にまとめたものが、次の3ページ・4ページ。

3ページ。

委員会・各分科会の4つの検討テーマで議論が行なわれた。

検討テーマ1、スポーツ人材育成の拠点“兵庫”の形成では、特にアスリート育成分科会が特化した議論を行い、特に高校までに海外を経験するのがよい、あるいは兵庫ゆかりのアスリートが活躍できる場づくりが必要といった提案があった。

このような提案を、具体化かつ議論を重ねていただきながら、最終的には一番右の四角で示した「人材バンク」でまとめた。

ここでは、「●兵庫ゆかりのアスリートを部活動支援や地域スポーツに活用」、「●世界での活躍を目指すアスリート支援」という、最終的には2つの大きな軸として設定した。

検討テーマ2、スポーツビジネスの拡大では、第1回委員会ではAIカメラでアマチュア試合中継が可能になり、新たなビジネスの可能性がある。

第2回委員会では、企業へスポーツの効果を示されること。そしてアスリートや企業が支える仕組みづくりを検討するのご意見があり、このスポーツビジネス分科会でも、関連した意見が多数ある中で、最終的には右の四角に示し「スポンサーシップ」とまとめ、「●スポンサーシップの醸成・構築」、「●コミットメントの強化」を提案している。

4ページ。

検討テーマ3、スポーツの環境づくりでは、かなり多くの意見があり、その中でも、第1回委員会では、簡単にテニスの壁打ちができる場所があればと、知事や沢松委員からも意見があり、印象が残っている。

その他、もっと学校施設が柔軟に使えればいい等、場所に関する意見が多く出た。地域スポーツ分科会でも同時にこのような議論を重ね、最終的には「空間開放」ということで整理をしている。

この中の主要な取組として、「●部活動地域移行モデルの地区・指定

取組の展開」、「●場所・人材・スポーツ活動をつなぐ仕組みづくり」といった提案を行っている。

最後に、4つ目のユニバーサルスポーツの振興については、第1回委員会から、障害者と健常者が一緒にスポーツをする仕組みづくりが必要であるという意見があった。そして、このテーマを検討するユニバーサルスポーツ分科会からは、既存施設はユニバーサルデザイン化の現状を把握することが先決といったような、県民誰もがスポーツを楽しむ環境づくりをしてほしいという意見が多数出た。

この結果、最後は「Well-being」という、現在国内外で注目されているキーワードの下、本提案書では、「●リクリエーションスポーツの普及」、「●ユニバーサルスポーツの普及」として集約している。

次の5ページは中表紙で、6ページ。

このページは、これまで集約された、先ほど説明した4つの「人材バンク」「空間開放」「Well-being」「スポンサーシップ」を柱立てし、委員各位のご意見・提案の4つを集約した形でアウトプットしている。

特に、イメージ図に示しているように、それぞれが個別的に分化されている状態ではなく、この4つの柱がうまく連携し、循環しながらサイクルすることで「HYOGOスポーツ」の将来に向けての新展開、全て持続可能な形で発展してほしいという意味も込め、本提案書では総称を「HYOGOスポーツエコシステム」としている。

今回の意見書では、新展開の方向性とそれを醸成する4つの柱を重要な要素とし、それぞれの具体案を示した。これら4つの要素を元に、具体的な内容について、紹介する。

1 人材バンク

7ページ：「HYOGOアスリートバンク」の創設

本検討委員会の朝原委員、沢松委員、八木委員も含め、本県はすばらしいアスリートを輩出してきた。そして地域にはまだまだ埋もれた人材もいる。そのため、兵庫ゆかりのアスリートを兵庫県認定アスリート、あるいは兵庫スポーツ大使などを任命し「HYOGOアスリートバンク」を構築する。そして、この運用により、今課題となっている部活動の地域移行に対し、部活動支援や地域スポーツの人材として貢献することが可能ではないかという提案。

さらには、学校や地域の指導者派遣を目的とした一元的窓口として、指導者派遣の紹介システムの設置、そして県内企業への就職やスポーツ指導者としての雇用といったような、企業とアスリートのマッチングを加速させ、本会議でも提案があったセカンドキャリアにもつなが

る展開を提案する。

8 ページ：世界で活躍を目指すアスリート支援

若者が海外の空気を感ずる環境を創出していただきたい。千布委員からご意見あったように、世界ではどんどん若者がチャレンジしている。

兵庫県出身の若者が世界で活躍することで、次の世代へのバトンにつながる。世界をリードする若者が兵庫からあふれ出るように、海外留学支援、国際大会・国際試合の誘致、そして県内のプロスポーツクラブに入団する新人選手を対象とした合同研修、さらに兵庫ゆかりのアスリートの国際経験を次のアスリートに還元していく仕組みづくり、このような積極的な取組によって、兵庫の地政に対してのスポーツ国際化に向けた、バックアップをお願いする。

2 空間開放

9 ページ：「HYOGOスポーツベース」の開設

スポーツの環境、場所に関する問題については、本委員会でも多くの課題が共有された。

この課題に対し、県・市町・企業・大学の用地敷地の空きスペース、空き時間を連携シェアリングしスポーツ利用空間「HYOGOスポーツベース」を多く開設していく提案である。

これを筆頭に、部活動を含めた地域スポーツモデルの地区の指定・取組の展開、テニスの壁打ちができるスペースのような気軽にスポーツができるという意味で「HYOGOチョイスポ」の設置、そして「スポーツクラブ21ひょうご」の再構築、都市近郊の森林を活用したスポーツや体力づくり、そして最後に粟井委員からのご意見あったように、学校施設が放課後、あるいは平日夜間で開放される働きかけや、キャッチボールできる公園やスペースの整備に向けて新たな方策も検討していただきたい。

10 ページ：HYOGOスポーツのDX化

沢松委員からのご意見があったが、まずはスポーツ施設が少しでも簡単に予約しやすくなるよう、まずはDX化から進めていただきたい。さらに「する」「見る」「支える」の情報を一元化や、AIカメラの技術が飛躍的に進んでいるので、その中で樋口委員からのご提案あったように、地域のスポーツをリアルタイム配信するなど、スポーツの裾野拡大をお願いしたい。

3 Well-being

11ページ：レクリエーションスポーツの普及

県民の誰もが普段の生活の中で、気軽にスポーツや運動ができる環境づくりと、若年層や子どもたちに対し、楽しむスポーツ、コミュニケーションツールのスポーツ、引退がないスポーツ、あるいは複数種目、マルチスポーツ、シーズンスポーツの推進をお願いしたい。このような複数の種目大会や活動に参加できる仕組みを検討し、次世代、子どもたちがスポーツ文化の全ての可能性を享受できる未来投資をお願いしたい。

12ページ：ユニバーサルスポーツの普及

増田委員からご意見があったように、障害・性別など分け隔てなくインクルーシブなスポーツ活動の機会を増やしていく。そして、指導体制やスポーツ用具のパラアスリートを対象とした強化支援、地域住民を対象としたスポーツ施設のハード・ソフト面におけるユニバーサルデザインの現状調査を実施し、将来的にはインクルーシブなパラスポーツ拠点づくりに向けての検討を提案している。加えて、そのインクルーシブなスポーツ競技の普及や、女性の生涯スポーツを支援するための機会確保や環境整備を進めていただきたい。

さらに、年齢・性別・障害の有無にかかわらず、天候や場所にも捉われないユニバーサルスポーツとしてeスポーツの可能も非常に高いということは認識されているため、兵庫県においても、この分野のさらなる普及推進をお願いしたい。

4 スポンサーシップ

13ページ：スポンサーシップの醸成・構築

本委員会では、特に結城委員と松田委員からご意見をいただいたが、兵庫からスポーツを支える企業の拡充や、民間資金などの獲得、スポーツスポンサーシップの醸成・構築、ふるさと納税制度を活用したH Y O G Oスポーツに対するスポンサーの拡充についての提案があった。

そして、井口委員や豊川委員から、地域における地元クラブ、兵庫ゆかりのアスリートを紹介した県民のシビックプライド醸成やブランド力を高めていく可能性、県内の大学・高校スポーツ・アマチュアスポーツもメディアコンテンツとしては非常に宣伝性が高いというご意見があった。

これらの試合をネット配信等によって、ローカルスポーツコンテンツとしての収益化が見込まれるのではないかと提案をしている。

14ページ：官民連携のスポーツコンソーシアム

現在、県では、スポーツクラブと包括連携協定を締結し、行政とチームが両輪となって様々な連携をしている。まずは、柳委員からもご提案があったように、様々なステークホルダーを巻き込んでの官民連携による枠組みが必要であるご提示をいただいた。また、小野田委員からは、観光部局やDMOとの連携も行いながら、スポーツだけではなく観光資源も掛け合わせた形でのインバウンドを促進していくことが、この兵庫県で非常に生産性が高いご提案をいただいた。そして、このような提案を実現していくためにも、今後は、右図のほうでイメージしていますような官民連携に基づく組織化の検討していただきたい。

【井ノ本県民生活部長】

各委員からこの提案に対してコメントいただきたい。

【栗井委員】

今回、特に中学部活の地域移行に関して、問題意識・課題を持って、何か貢献できないかと思い、参加した。本当に分科会の皆様の多数のご意見もあり、いくつかの提案ができた。

課題として最初の委員会でも取り上げられた、指導者・財源・場所がないと、なかなかスポーツが振興しないという現状。それに対するアイデア・解決策について意味のある提案ができた。

ただ、進めていくに当たり、現実的な仕組みづくりが必要である。具体例を挙げると、アスリートバンクやスポーツベースなどアイデアが出ているが、できるだけ早く実現化しないといけない。DX活用し、できるだけ簡単に参加者がアクセスできるものを早く作っていくことが必要。

また、この会を通じて、ユニバーサルスポーツ、レクリエーションスポーツ・マルチスポーツといったキーワードが出てくる。指導者・財源・場所の課題を解決する上でも、このキーワードが必要不可欠なので、一緒に考えていかないと、課題解決にはつながらない。

私ども阪神タイガースとしても、今回のアイデアと提案の中から、1つでもその一役を担えないか、持ち帰り検討したい。

【千布委員】

知事のリーダーシップの下、素晴らしい提案が仕上がったことを地元のプロサッカークラブとして本当にうれしく思っている。個人的に、本取組の最も素晴らしい点は、産学官あらゆるステークホルダーの方が一堂に会して連携しているところ。各団体、各人がやっている取組が、こちらの施策を通じて2倍、3倍、10倍とインパクトになり、兵庫県におけるスポーツ振興、社会貢献へつながっていくと確信している。

本提案の中で、個人としては特にスポーツコンソーシアムは様々なことを推進していく司令塔になると思っているので非常に重要な組織だと思っている。これも以前に、別の会議で発言したが、コンソーシアムが本当の意味で稼働するには、片手間ではなくて、それなりのコミットメントがないと、ここにあるアイデアが実行できない。推進力のある体制づくりをお願いしたい。可能であれば、齋藤知事に本コンソーシアムのリーダーシップも担っていただき、知事直下で推進していけるとスピード感を持って進められる。

我々は兵庫県を代表するサッカークラブとして、しっかりコミットメントしたい。1つでも多く貢献できるように頑張りたい。

【沢松委員】

各分科会のメンバーの皆様には、本当に内容の濃いものに仕上げていただいたと感謝している。非常によく分かりやすい資料になっている。

私が少し気になったところは、まず人材バンクについて、これは主に、元アスリートに意見が求められているところだが、3点ほど補足する。

まず、1点目は、「人材バンク」というネーミングだが、もし可能であれば、せっかくこの兵庫の宝の皆さんを集めて登録することになるので、何か希望の見えるような、明るい未来が見えるような、そういったネーミングをぜひ知事にお考えいただくか、もしくは皆様から提案いただくか、少し若い皆さんの意見なども取り入れてもいい。例えば、アスリートトレジャーバンクとか、何か少し人材バンクと違うネーミングもあり。

2点目は、集まった人材に関して、登録していただくだけではもったいないので、得意分野をしっかりと分けていくことが大事。例えば、お子さんに教えるのが上手な方、高齢者の方に教えるのが上手な方、あとママさんスポーツ、一緒に楽しめる方がいるのかなど。そして、部活動、トップアスリートのスキルアップに貢献していただける引退間近の選手。

そして残りは、何かスポーツを通して我々が経験できたことを学校で講演をすとか、話を通してスポーツで還元できる元アスリートの方。各得意分野に分けて登録するということはできればいい。

これは当然パラスポーツも同じで、同じように各分野に登録できれば、より人材をうまくいかせる。

そして最後の3点目、アスリート支援の分野。

県が、宝の原石である今の高校生までに海外を経験させ、選手に、投資するわけで、それらの選手たちにはしっかりと、その投資によって得てきた経験バンクに登録していただき、兵庫のスポーツに貢献する。そういったシステムをきっちりと、ギブ・アンド・テイクでつくっていくこともすごく大事である。

これはIMGアカデミーに派遣している盛田財団が、このようなシステムをうまく使っているので、投資したからには、しっかりと貢献していただくというお約束を取り付けておくのも大事。

【柳委員】

1つ目は空間開放だが、この段階でもしっかりとマルチスポーツの観点を取り入れる。例えば、テニスの壁ですが、場合によっては野球のストラックアウトのような絵や、またサッカーゴールが描いてあって、PKとかフリーキックの練習もできるなど、その段階から細かいがマルチに楽しめる、そういう意識が大切。

また、学校開放も、スポーツ施設だけでなく、場合によっては空き教室も活用する。卓球など競技によっては狭いスペースででき、レクリエーションスポーツも活用できるので、そういった場所も提供いただけるとありがたい。

スポーツ施設をつくるときに、よくありがちなのは、実際につくったが、あまり活用しやすくはないこと。例えば、バスケットボールの屋外コートなど、フェンスで囲っているが、ボールを使っているとボールが出ていってしまう。フェンスを回って取りにいけない。そういったことが起こっているのが実情である。つくる段階から様々な観点で、例えば、指導者、利用者、障害をお持ちの方、いろんな方が最初の段階から介入し、利用しながらも改善できるような、施設が望まれる。

続いて「Well-being」、第1回でもお伝えしたが、リサーチとしてしっかりと検証することが大事である。今、特に運動スポーツ実施率が特に取り上げられている。「Well-being」なので、その割合だけでは明らかにできないところがあるので、ぜひ県も現在の調査項目に加えるとか、そういったことで検証していくことも大事。

続いて、スポンサーシップについては、部活動の地域移行、そういったところでボールを企業が寄附する記事も目にするが、近年では大学のチーム、アスリートにスポンサードすることも多くなっている。これをぜひ小学校・中学校・高校、そういったところにも支援の輪を広げて、様々な形で活用できるスポンサードをしていただきたい。

さらには、その地域のスポーツクラブも経済的には厳しい状況に置かれている。地域のスポーツクラブ、既存のスポーツ団体、個人へのスポンサード、場合によっては地域の運動会とか、企業をマッチングし、身近なところでスポーツへのタッチポイントを増やしていくこともぜひ継続して増やしていただきたい。

そういったことがよりスポーツイベントの持続可能性を高めることになり、団体の持続可能性を深めることにつながってくると考えている。

最後に、この提案がいつまでにどのようにしてゴールを目指していくのかという計画性も重要になってくる。ぜひそういったところを私

自身も知りたい。

現在、子どもたちが無料で試合を観戦できるプログラムがあるが、非常に有意義である。今後は、例えば貧困とかヤングケアラーとか、そういった社会課題を抱えている人たちに対しても手を差し伸べていく、公正性のあるような、そういうステップが次に必要になってくる。

今回このような会議に私は参加し、スポーツに関わる方だけではなく、多くの方、様々な方が集まる、こういう会議体というのは非常に重要であり、ぜひ継続性を持った会議体をつくり、兵庫県のスポーツ推進計画などとも互いに補完し合いながら、スポーツを推進する牽引するような形をぜひ実現していただきたい。

【樋口委員】

提案書の「HYOGOスポーツ」のDX化にも書かれているが、スポーツの「する」「見る」「支える」、この全てのシーンにおいてICTは大きな力を発揮する。AIカメラを活用したローカルスポーツ配信では、従来の中継と比べて人手をかけない低コストでの配信が可能となり、視聴者の裾野拡大にもつながる。さらに、その配信環境を活用した収益化に取り組むことで、持続可能な地域スポーツの発展にも寄与できると考えている。また、今後県内のスポーツ関連施設のさらなる活用や、学校施設の開放等を進めていくために、人手をかけない予約や鍵管理などの運用の効率化、データの一元管理が必要となる。ここでもICTは大きく貢献できると考えている。

続いて、eスポーツに関しては、提案書のユニバーサルスポーツの普及で言及されているが、eスポーツは年齢や性別、障害の有無を超えて、また天候や場所にも捉われず取り組めるという特性がある。

一例として、先月、県と一緒に県内の高校生を対象にした「HYOGO高校生eスポーツ大会」を開催した。この大会では、予選はオンラインで、決勝戦はリアル会場で開催し、両方配信で中継した。参加者の高校生も、神戸、姫路、丹波とか、県内の様々なエリアからご参加いただき、まさに場所に捉われないスポーツの特性を実感できる大会となった。

もちろんeスポーツというのは高校生に限らず幅広い世代が楽しめるもの。eスポーツの普及を推進し、県民のあらゆる方々が制約なくつながり、活躍できる場を提供できればと考えている。

今後、ICTを活用したスポーツDXを推進することで、兵庫県におけるスポーツの振興、スポーツを通じた地域活性化につながるべきと考え、私たちも微力ながら尽力させていただき、貢献したい。

【井口委員】

絶妙のタイミングでこのような会議が行なわれたと感じている。冒頭、知事からも、紹介があったように阪神タイガース、ヴィッセル神戸、そのほかアマチュアスポーツ、学生スポーツ等々、本当に県内の

アスリート、もしくはチームが活躍し、非常に盛り上がっている。毎日放送でも阪神タイガース、ヴィッセル神戸の優勝特番も放送させていただいて非常によく観られている。「せやねん！」という報道ワイド番組でも、兵庫県のアマチュア高校生たちを取り上げ、非常に視聴率もよく、近畿の視聴者の方に観ていただいている。

よく我々のスタッフとも、スポーツ観戦の楽しみというのは究極のえこひいき行動だと話している。現代では推しという言葉が使われているが、自分たちの推しを、もしくは推しアスリートチームを見つけ、応援する。そしてスポーツを観ることで、その感動を体験する。その究極が子どもの運動会であったりするかもしれない。

その中で、我々メディアは、プロスポーツ、それからアマチュアスポーツに関して、兵庫県のほうから情報発信をしていただき、我々がキャッチし、電波にのせて、その推しアスリート、推しチームに関西の人、引いては全国の人にそのファンになってもらうことが一つお役に立てることと感じている。ぜひ情報発信していただき、我々メディアを利用していただきたいと感じている。

それを見ながら自分の好きなスポーツを見つけて、それぞれ個人がユニバーサルスポーツも含めて体験するという循環が非常に大切なのかと感じている。

【豊川委員】

今回の提案書は、当委員会と分科会で議論された内容が盛り込まれており、非常に充実したものにまとめていただいた。

課題としては「HYOGOアスリートバンク」を導入する際、登録していただくアスリートおよび指導者に対する支援を充実させておくことが重要。

前回の委員会で、姫路市内の中学教員が「地域移行施行後に土日も続けて部活動を指導したい」と思っている数が16%しかないという、同市教育委員会のデータを示した。本日示すデータは加古川市教育委員会のアンケートで、同市内の中学教員の77%が「土日だけでなく平日も完全移行してほしい」という結果。これは現在の中学教員は疲れ切って、部活動を指導する余裕もない表れかもしれない。今後、部活動の完全移行が全国に広がっていく事態になれば、たちまち指導者不足問題が噴出するだろう。

先ほど朝原委員と話したが、指導者になるためにはお金と時間がかかると言われた。指導者は簡単には養成できないため、最初から手厚く支援する視点を組み込んでおく必要がある。スポンサーシップの醸成・構築という切り口で、指導者を支援することも可能だろう。

もう1つ気がかりな点がある。日本中学校体育連盟（中体連）が2027年度から全国中学体育大会の規模縮小を検討していること。部活動の地域移行によって、より良い方向に進んでいこうとする流れに逆行するかのような動き。大会運営の負担を軽減するために規模を縮小

するという考え方は違いただろう。ここは地方自治体とメディアが「子どもたちが主役」という視点で声をあげていかなければならない。子どもたちのために運営に携わってくれるボランティアもいるはず。

ユニバーサルスポーツの普及という点では神戸マラソンのコース変更の基本理念をお伝えしたい。これまで大会の難所とされてきた浜手バイパスの急坂や神戸大橋を外したのは、走破タイムの向上だけではない。コースを平坦化することによって、車椅子の方も健常者の方と一緒に走れる大会にしようというのが根底にある。ユニバーサルデザインを目指したコース変更だということを報道していかなければと思う。

最後に、地域スポーツのモデル地区の指定ということでは、神戸新聞でも東播地区の取り組みをよく取材している。加古川市、播磨町、三木市などの自治体が地域移行に対して積極的。三木市はモデル事業として25年度に同市のゴルフ部を創設するようだ。子どもからゴルフに打ち込める環境を魅力に、家族の移住までも視野に入れている。

【増田委員】

ユニバーサルスポーツ分科会の座長も務めました。神戸マラソンのすてきなお話を聞き、非常にうれしい。

本当に今回のお話の中でユニバーサルという言葉が、そして私たちの中でも障害者スポーツという言葉は消えかけ、パラスポーツというような共通認識になり、我々の分科会でもパラスポーツに統一しようというような声も出ている。この分科会は11月より、5回開催し、最終の報告書をまとめ、委員会にも提出させていただいた。

障害者スポーツという中では、パラスポーツという中で大きな5本の柱ですが、スポーツの普及・理解促進、それからアスリートの発掘・育成・強化、パラスポーツ指導者の養成。この指導者養成も見る限り、親子で受講するという、そんな関係を見ると非常に喜ばしい傾向が見られる。それからパラスポーツ拠点の施設、パラスポーツ施策の推進体制について、パラスポーツに関わる専門分野の皆様から多くの意見をいただく。これはアスリートだけでなく、福祉・教育、また障害者団体、そしてパラリンピアンからも意見もいただいた成果になっている。

本日の委員会資料では、その中から主な提案について7つの記載があり、特に伝えたいのが、これからのパラスポーツ、ユニバーサルスポーツがより一層普及していくにあたり、障害の有無にかかわらず、誰もが一緒に国籍を越えて、障害の方たちが取り組める環境の整備が必要ではないか。インクルーシブという言葉が非常にはやりの中、インクルーシブは何なのか、ユニバーサルの定義は何なのか。学会等でも議論されているが、既存の施設をいかに有効活用していくか。また、必要なユニバーサル化をハード・ソフト両面でどう整えるか。

県・市・町の財政状況は非常に厳しい状況である。施設においては、

県においても来年度、引き続き現状の調査などを実施する予定と聞いている。私も微力ながらお手伝いできればと思う。この辺からも、最近やはりアウトドアのスポーツという中では、障害の方たちも箱の中でやるスポーツだけではなくて、やっぱりアウトドアでできるスポーツのニーズが非常に高くなっている。日本海、それから瀬戸内側、いろんなところで、または伊丹でヨットをされているなど、環境も徐々に良くなっているが、まだまだ環境整備が必要。

パラスポーツというと、支援されるという意味合いが強いが、ブラインド関係では、企業の従業員のコミュニケーションスキルを上げる形でブラインドスポーツをやっている団体もある。その中で、パラスポーツの見方変えると、その可能性も出てくる。

【小野田委員】

観光のキャッチコピーとして、この「HYOGOスポーツ」という響きが良い。阪神タイガースの優勝の影響が大きかったのか、例えば東京スポーツ、札幌スポーツより、はるかに「HYOGOスポーツ」のほうが、ぴったりでアドバンテージがある。提案書を拝見すると、根っこから兵庫県はスポーツの県であるところも証明されている。ぜひ、この「HYOGOスポーツ」というブランドを、ぜひ兵庫県の観光のブランドとして国内・世界に発信して欲しい。スポーツ分野でここまで分厚い都道府県はないので、ぜひ「HYOGOスポーツ」を強調してほしい。

私も岡田監督と同じ年で阪神ファンになり60年、昨年の一の影で今年初めて沖縄のキャンプを見学に行った。スポーツツーリズムはそのようなもの。この阪神タイガースを始めたくさんのコンテンツがある「HYOGOスポーツ」をぜひ兵庫県の観光のキーワードとして使っていけば、もっと多様なスポーツファンへPRできる。

特に「レガシー」、甲子園球場の100年、ゴルフの発祥の地、そういうストーリー性も兵庫にあり、ラグビーでは平尾誠二さんのようなレジェンドもいる。そのようなストーリーも強調して欲しい。「HYOGOスポーツ」という響きは非常に良い。

【松田委員】

1月から、アシックスから出向しニシ・スポーツという陸上競技の競技場の運営設置、日本の9割の陸上競技場の維持管理をしている。そのほか陸上競技大会の運営をサービスとして事業とした会社になる。

そこで2、3か月経ち、陸上競技大会の運営、審判員の高齢化を非常に感じている。20年前、私がアシックスに入り、兵庫リレーカーニバルに行ったときの審判員の方が、今も現役で頑張っている姿を見ると、非常にすごいな、尊敬するなと思うのと反面、今後どうなっていくのかと心配がある。そういう意味で、今回の提案、スポーツ人材の育成とDX化というのは非常に大きく寄与するものと考えている。二

シ・スポーツとしても、ぜひ貢献したいと思っており、兵庫県下も同様の問題を抱えている。

また、昨年までスポーツマーケティング部で働いており、スポーツマーケティングという意味においては2つの意味がある。

1つは、スポーツを通じて企業をマーケティングしていくこと。

もう1つは、スポーツ自体をマーケティングしていくこと、その2つを行なっている部署と考えている。同じようにスポーツを通じて兵庫県をマーケティングしていくところと、あとは兵庫県のスポーツをマーケティングしていくこと、その意味合いがこの提案に込められている。ぜひ民間企業として、今後強くコミットメントしながら、この提案を実現できるようにサポートしていきたい。

【朝原委員】

1つ目の人材バンクは、結構やっている。実際、性善説に立つと、これに共感してみんな登録しようかと思うのだが、現実はそのように簡単ではない。登録するには、やはり自分たちの生活もあり、自分たちの誇りもある。何かしらここに登録することがアスリートにとって、指導者にとって都合がいいか、自分がやりたいことに方向性として合っているとか、あるいは自分の生活にプラスになるなど、メリットがないと難しい。兵庫県のためにひと肌脱ごうというだけでは、そんなに簡単には集まらない。工夫が必要である。ただ、ここに人が集まってくると、地域のスポーツ、部活動の移行も含めて一番大きな課題の解決につながっていく。一番の根底のところでは、競技のレベルはもちろん、その指導者のレベルを上げないといけない。また、働き方改革によって、子どもたちの居場所がなくなってくるのが心配。

部活動は、居場所というか、スポーツをするお子さまだけのものではない。友達づくり、コミュニケーションの場として活用しているお子さまもいるところ。スポーツだけではなく、音楽とか文化も同じだが、そういう場と機会をなくしてはいけない。そこを考えながら、場所の提供、機会の提供を実現していく。実現に向けて、委員の皆さんのネットワーク、実際に動いていく兵庫県の方がしっかりサポートしていくことで実現していく。

それが輪になり、みんなでやろうとなると、コンソーシアムが具現化していく。得意分野でやりたい方が兵庫県に相談し、それをサポートしていく形でいけば、実現していくと考えている。

最後に、東京デフリンピック2025の応援アンバサダーになった。パラリンピックは有名になっているが、デフリンピックも応援をお願いしたい。

今回、私も勉強させていただきながら、この会に参加した。兵庫県の出身者として、スポーツを本気で盛り上げたいと思っているので、実際に汗をかいて頑張りたい。

【井ノ本県民生活部長】

各委員の皆様、ありがとうございました。

それでは、最後に、先日、現役引退を表明されたサッカーの岡崎慎司選手から、子どもたちが海外に挑戦することの意義等について、ベルギーからメッセージを預かっているのでご覧いただきたい。

【岡崎選手（サッカー）】

海外に行きたいというのは子どもの頃からあった。結局、自分が海外に行ったときに、本当に世界が変わった。

一番良いと思うのは、自分が1人になる。自分の国を出るってというのは、なかなかできることではない。ヨーロッパの人たちは、すぐ他の国に行ける。日本では中々できない。自分1人で頑張ったように見えて、周りの人がいてくれたから自分が輝かせてもらった。

特に、日本の文化が海外に出ると特別だと分かるのが、他人に対して、このように考えているのが言わなくても伝わるとというのが日本にはある。体調が悪そうと思ったら、体調が悪いと思って対応してもらえる。

海外では「体調が悪い」と言わないと気づいてもらえない。本当に自分で何とかしないといけない。

高校生が良いのは、滝川第二高校で3年間、頑張った経験がある中で、3年間の記憶がすごく多い。目指したいものが決まっており、人間的にも経験し、その受け止められるだけの精神力もある。一番入りやすい経験になりやすい年代だと思う。日本を出ること自体がすばらしい経験になる。

【井ノ本県民生活部長】

それでは、知事からコメントをお願いします。

【知事】

本当に様々なご意見をいただき、改めて御礼申し上げたい。

今年度からスポーツ担当が教育委員会から知事部局に移管した。これが非常に大きな推進力になった1つの要因。

例えば、子どもたちをサッカーやバスケットボールの試合に、ふるさと納税を活用するなど無料招待するプロジェクトなども、数千人の子どもたちを、既にいざなっている。

私も試合に行って終了後にお子さんたちと話すと、お子さん自身も喜んでいるが、親御さんが、経済情勢も含めて厳しい中で、こういったきっかけをつくってくれたことで大変ありがたいという声を聞く。スポーツを初めて見てファンになり、2回目、3回目行ったという声もある。こういった機会を増やすことができたのも、今回スポーツ担当課を知事直轄にしたこと、今回のような、本当に総合的な戦略を考えることができる場をつくられた。

本当にこれは大きな一歩である。今日いただいたことを踏まえ、大事なのは、ビックスタートとスモールサクセス。すぐできることから早く始めていく。そして成功体験を積み重ねていくということが大事。ふるさと納税を活用した無料招待プロジェクトはまさにその一つ。

スポーツができる場所づくりも、今、県の施設を太閤検地のようにチェックしている。

柳委員からいただいた、テニスの壁打ち線だけでなく、例えば、野球のストラックアウトの線、場合によってはサッカーゴール、ラクロスのボードやバレーボールの高さまでの線、バスケットゴールをイメージする枠をつくるとか、マルチな枠をつくっていくことを1つのパッケージでやるというのも1つのアイデア。

あとは、未来のアスリートを育成するということで、今の岡崎選手から話があったのは、来年から、お手元に資料のとおり、兵庫の高校生、グローバルに挑戦するプロジェクトとして、「兵庫高校生海外武者修行応援プロジェクト」をスタートする。

県内で結構英語を勉強するとか、スポーツやビジネスをやっている子が、海外に一度行ってみたいと考える高校生が結構いる。

円安の影響や家庭環境によって、行きたいが諦めている子が多い。大体1か月ぐらい行く場合には50万円ぐらいかかるので、高校1年生・2年生が夏休みに1か月海外で挑戦した場合に、最大平均渡航費含めて50万円応援するというプロジェクトを官民連携でスタートしたい。

これは、学校の交流交換プログラムで行くのではなく、学生さん個人が自分で企画をし、何をしたいのか、どういったところに行きたいのかというのを自分で考えて企画をするというのがポイントである。少子化の中で個の力を高めていきたいというのが私の思いです。

10人からスタートし、数年内でできれば100人まで増やしたい。例えばテニス、陸上、野球もそうですけど、色々なスポーツでチャレンジする高校生を大人たちが応援するように取り組みたい。

ファンドをつくり、半分を税金で、残りは企業さんからスポンサーでやっていきたい。

今、声をかけしているが、思ったより集まってきており、できれば10年ぐらい続けたい。

ポイントは2つあり、1点が、海外に行く前に兵庫の良さを学ぶ。例えば、万博の兵庫フィールドパビリオンのプロジェクト、兵庫の地場産業など、色々な取組の素晴らしいところを必ず事前に研修で学ぶということ。海外に行ったときに、自分はどこから来たのか聞かれたときに、海外で兵庫を学んでおけばよかったということがある。それを事前に学んでいただき、海外に行ったときに、兵庫のアンバサダーとして、PRできる大使になってもらいたい。

もう1点が、帰国してからスポンサーしていただいた人たちと報告会、交流会の開催をする。生徒たちが、アンバサダーとして貢献をし

たということをプレゼンし報告してもらおう場と、応援していただいた企業の方や、スポーツ関係の皆さんと交流を続けていくことにより、人材のコミュニケーションにもつなげていきたい。

1つ言えるのが、100人ぐらいの子どもたちが兵庫から毎年、海外に1か月行く社会になれば、間違いなく兵庫県の社会が変わる。しっかり遂行させていきたい。

今年から始まりますので、10人枠ですけど、どういう子どもたちが応募してくれるのか、誰も応募しないのか、非常に楽しみにしている。是非、ご関心持っていただければと思うので、よろしく願います。

本当に貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

【井ノ本県民生活部長】

座長のほうから一言お願いしたい。

【長ケ原座長】

私からは最後、感謝の言葉しかない。知事も含めてかなり提案書に関しての、推しを最後に言っていたが、進める方法、内容、課題、展開方法など、ワークショップのようにアイデアがふくらんでくる。本当にこの委員会はこれで終わるのかなという、また続けていただきたいというのが本音である。

最終的にこのような形でまとまったので、合作として提案させていただきたい。

今から、この兵庫のスポーツの扉が開くということで、新しい景色に向かって我々も応援団として、これからは「HYOGOスポーツ」の号令として、推しの提案で、推し活を頑張っていきたい。

エールを込めて、感謝の気持ちを述べさせていただく。

ありがとうございました。

【井ノ本県民生活部長】

皆様ありがとうございました。

本日、委員からのコメントに係る提案書の反映等は、座長と事務局に任せていただきますことお願いしたい。

10月から始まった委員会だが、皆様からすばらしいご意見を頂戴し、滞りなく今回のような提案書ができた。本当にありがとうございました。

今後とも引き続き「HYOGOスポーツ」のご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。